

3. 報告における質疑応答

○商業・工業高校の統合について

【質問】学校適正配置委員会で、小樽商業・工業高校の統合を具体的に検討するうえで、市民の声を反映しているのか。統合に至った経緯を説明してほしい。

【答弁】校舎が老朽化によって到底使えない状況にあり、当初は校舎の移転も考えられたが、西陵地区から中学校がなくなることを憂慮し、中間に当たると思える場所を設定した。また、市から、近くに商科大学があることで、色々な面で連携できることを提示され、問題のない商業高校の施設を無駄なく活かすということも考慮している。その中で、発表にあたり、地域の声を聞いて、市民がある程度納得してからでないと進めないということを基に、西陵中学校で地域説明会を行った。後日、松ヶ枝中学校でも地域説明会を行う予定である。

○小学校の統合について

【質問】これから多くの小学校が統合されるが、通学路が遠くなる子どもたちにとって徒歩で通うのは大変になるので、マイクロバス等の導入が必要ではないか。議会での検討課題に挙がっているか。

【答弁】小樽市では、徒歩での通学を勧める通学距離が、小学校では2 km、中学校では3 kmとされているが、例えば低学年児童にとっては、範囲内でも山を1つ越えなければならないような場合や、単純にかなり遠くから来ている人が大変だということは事実。実際にスクールバスの提案は何度もしているが、基本的には市に譲ってもらえないのが現状。通学路の安全と通学距離の安全については、我々のほうでもしっかりと考えさせて頂く。

○小樽商業・工業高校の統合について

【質問】小樽商業高校と工業高校が統合する理由を説明してほしい。

【答弁】簡単に言うと生徒数が少ないから。一定の人数がいないと、教師の配置など学校の運営が上手くいかない。道教委が出した計画を十分に検討したうえで、統合するという結論に至った。

4. 意見交換

○港湾整備と観光対策について

【質問】小樽市は財政問題を抱えているが、その中で第3ふ頭の再開発に20億もの資金を投じていいのか。小樽市の観光の課題と解決法を考えるにあたり、北運河と手

宮には年間 750 万人いる外国人観光客のうち 1 割でも誘客できれば、観光の目玉の一つとして手宮地区も活性化するのではないか。

【答弁】第 3 ふ頭には、クルーズ客船誘致の計画を進めている。議会、経済常任委員会において、港湾整備事業については費用を分散していかなければならないと議論している。北運河、手宮線の再開発については、現実問題として資金源が最大の課題であり、誰が主体となってやるかという問題もあるが、可能性は捨てずに、もっと効果的・魅力的な方法でやっていきたい。関係各所と連携して、ゾーンとして考える地域全体の再開発は、今後の小樽にとって非常に重要なポイントになってくると思うので、市民の意見を十分参考にして、行政側とも意見を交わしながら、力を合わせていきたいと思っている。

○艦船の扱い方について

【質問】2 月 4 日と 5 日に米軍の艦船が入ることになったと聞いた。小樽市の港に入るための 3 つの条件をクリアしたからといって、何十年もの間、市が、外務省が核の搭載について「積んでいないと思う」と回答したことを根拠に、どこを通過してきたか明確でない米艦の入港を許可している。現在の厳しい国際情勢においては、市長が港湾管理者として、市民の生命と財産を守るという態度を見せず、唯々諾々と許可しているように感じる。事実を受けて、市議会は市長に対してどういう考えであるか。

【答弁】ずっと前から、米艦が港に入る際の扱い方については議会でも議論がされている。現時点での小樽市の港に艦船が入るための 3 条件は、商業港としての運営に支障が出ないこと、バースの手配がつくこと、核兵器を搭載していないことである。米国領事館を通じて、外務省に照会を行っている。今回の件に関しては、日程が不確定だったロシアからの商業船が来ていれば、米艦の入港を拒否したかもしれない。市議会の中で、「国の専権事項なので自治体がなかなか止めることができない」とする賛成派、「非核港湾条例をつくって、疑いのある船は入れない方がいい」とする反対派、賛否両論があると認識しているが、反対案が否決されているという現状である。

○小規模教育について

【質問】生徒が減ってくるから学校を統廃合するということは、当たり前ではないと思う。学校がなくなることは、通う児童生徒、その家族がいなくなる、結果的には地域が衰退していくということである。一人ひとりに目が行き届く小規模校の方が学力の向上が図れる。世界的にも小規模な小中学校が主流となっていて、1 番学力が高い国とされているフィンランドでは 1 校あたり 100 人程度の生徒数であり、日本の 1 校あたり平均 322 人は非常に多いと考えられる。子どもの学力の向上、まちの

衰退に歯止めをかけるためにも、統廃合はいけないという立場に立ってもらいたい。

【答弁】統廃合の問題において、小規模教育についても議会で議論されている。小中学校の減少が地域の疲弊につながることも事実。しかし、小規模教育で学力が本当に向上するのか未確定という問題があり、統廃合によって約半分に減るはずだった41校すべてに、校舎の耐震をはじめとする教育環境の整備を行うことは、資金面からみて厳しい。教育面でも、生徒同士の相性が悪く、いじめ等が起こりうる時に、一方の生徒を一時的に他クラスに移すなど柔軟に対応できる点も含めて、ある程度生徒の人数がいた方がいいと考えている。

○市役所での喫煙について

【質問】WHOの勧告で、喫煙している場面がある映画等は18歳未満の児童には見せるべきではないとしているが、子どもを連れて市役所に行く友人が、入り口付近で市民や議員が喫煙をしている場面をたびたび見かけている。子どもが通る可能性があるところで喫煙をしてもいいのだろうか。新庁舎と旧庁舎の間にあるプレハブで喫煙をするように推奨しているらしいが、周知はされているか。他の市役所のように小樽市役所においても喫煙部屋を設けるなど、非喫煙者への配慮をお願いしたい。

【答弁】指摘のあったプレハブの小屋に排煙装置はなく、換気扇だけが備えられている現状。庁内は禁煙となっているので、喫煙をする人はそのプレハブ小屋か、そこが満員であれば携帯用の灰皿を持って外に出て喫煙し、できるだけ子どもや非喫煙者に影響が出ないようにしている。資金があれば、部屋を構えて排煙装置をつけることも検討している。話が合ったことは、総務・厚生委員会に伝える。

3. 報告における質疑応答

○除排雪の出資比率について

【質問】予算特別委員会では除排雪の業者が入札して決定された。入札ということは小樽の税金が使われているということになるが出資比率が公開されていないのではないか。議会として市に求めているのか。

【答弁】第4回定例会でも議論があったが、出資比率については情報公開に疑問があり、委員会でもはっきりとした答えが出ないので保留になっている。情報公開条例をどう解釈するか総務部で検討している。

4. 意見交換

○学校の統廃合に関して

【質問】小学校が統廃合されるのは、金銭的に予算を使うために統廃合されたのではないか。「少人数だから、授業の効率が上がらない」という理由だが、学校は効率だけが教育の効果を上げるものではないのではないか。地域の教育力・教育効果について考えなければならないのではないか。例えば、ある地域では学者も訪れるような特別な地質を有しており地質学、気象学などを学ぶきっかけにもなる。人口を増やすためにも小樽の持っている資源を生かし、有用な財産を活用すべきで、統廃合は乱暴なのではないか。

【答弁】地域に根差した学校を作ろうと考えている。忍路が長橋と統合されるが、忍路の自然を長橋でも生かそうと考えている。また、経済的な面もあるが、適正な生徒数にならないと教員や施設において学校運営が滞ってしまう。地域の方の意見も聞くが、地域の方にも前向きに考えていただきたい。

○周産期医療、防災について

【質問】なぜ小樽病院新設の時に産科を作らなかったのか。市長の「小樽市総合戦略」と違うのではないか。また、防災について小樽は自然災害が比較的少ない地域であると市民は認識している。毎年9月1日に防災の日小樽市主催で防災訓練を行っている。その運営には税金が使われているが、なぜ一般市民に公開しないのか。一般市民にも防災の意識を高めてもらった方がいいのではないか。防災無線の設置について。自然災害が発生したとき、市民に知らせるのが大事である。朝里の一部で

津波の避難訓練が行われたが、消防車のサイレンが聞こえないのが現状。小樽は津波の来ないところと思っているようだが、過去に積丹で大きな津波があった。ハザードマップなどもなく困っている。無線の設置には維持費など 10 億ほどかかるがぜひ検討してほしい。

【答弁】総合戦略については答弁を差し控えるが、周産期医療については、人口を増やすためにも産科を増設すべきだが、産科の医師不足の問題に直面している。小樽をあげて取り組んでいるが、目途が立っていないのが現状。

【答弁】防災については市民に来ていただきたいと考えている。駐車場整備や告知の問題があるが議会にも求める予定。無線については議会としてもしっかり考える。津波の避難については対策をしていないわけではなく、ハザードマップを近日市民の方に示せる予定。

○街づくりに関して

【質問】小樽市はもっと市民が自発的に街づくりする取り組みをサポートするべきではないか。町内会の取り組みでは道の許可がいる取り組みの時に市が協力してくれれば心強い。「朝里川計画」もどこの部署が担当するかが曖昧で、たらい回しにされた。また、街づくりセンターについてはどうか。

【答弁】小樽市に協力してもらえよう、早めに結論を出せるように努める。道にも物申す予定。具体的な要望をいただければ、サポートする。街づくりセンターに関しては、財源の確保が難しい状況。

○トンネルの照明・学園都市・ダム景観について

【質問】小樽は観光都市と宣言しているが、南口からの観光客を増やすためにも道道 1 号線の平磯トンネルを一部ではなく全部明るくしてほしい。また、学園都市を作るために余市などのようにその地域独自の文化、例えば網の補修方法、ロープのかけ方などを若者に教えるように学校や専門学校をつくったらどうか。また、朝里のダムの景観を損なわないように草を刈るなどすべきではないか。

【答弁】トンネル・ダムについて。小樽の中で重要な部分と考えている。できる限り皆さんの力になれるよう市の方に要請する。

○地域通貨について

【質問】地域通貨（福祉通貨）の取り組みは現在どうなっているか。安く見えるものではなく、デザインや肖像画にこだわり、地域独自価値、信用を付加したものを作ってはどうか。福祉サービスを円滑にするために検討してほしい。また、カジノについて、小樽に来るクルーズ船の中にカジノがあるが、そこで一般市民を入れて解禁し実験してデータをとってはどうか。そして新幹線が小樽まで開通することに伴い、

道議会を改築するのではなく、改修ですませ、北海道の行政機関の一部もしくは全部を小樽に移転してはどうか。

(総務常任委員会 山田委員長)

【答弁】地域通貨については取り組もうとしたがうまくいかず、これに代わる他の政策はない。もっと人を回し、福祉が充実するように努める。

【答弁】カジノについて今のところ法律の問題もあるので、こちら側で検討し、参考にする。

【答弁】北海道の行政機関の移設については国に認められるように頑張らなければならない。

○小樽市議会と市長の関係について

【質問】新しい市長と議員は仲良くできているのか。

【答弁】仲良くできていない。まだ市長との信頼関係ができておらず、意思疎通ができていない状況。今までは、調整役の副市長がいなかった。今回副市長が就任し、うまく意思疎通をし、仲良くできればと考えている。